

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	
施 設 名	第一生命ホール	
助成対象活動名	公演事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	8,996	(千円)
公 演 事 業	7,185	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	1,811	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ロビーでよちよちコンサート	H30. 5. 30・31 H30. 10. 30・31 H31. 2. 13・14	親子（お子様0歳6か月から3歳）でロビーで輪になって音楽を楽しむ 出演：内藤歌子/中川直子/北見春菜/富田真以子/井上紗織他	目標値	720
		第一生命ホール ロビー		実績値	870
2	クリスマス・オーケストラ・コンサート	H30. 12. 9	親子（お子様4歳以上）で指揮者無しのオーケストラでクリスマスの曲から交響曲まで楽しむ 出演：ARCUS（アルクス）	目標値	1,000
		第一生命ホール		実績値	1,129
3	子育て支援コンサート	H31. 3. 3	親子（お子様4歳以上）で音楽と絵本「銀河鉄道の夜」を楽しむ 出演：スーパーチェロアンサンブルトウキョウ（丸山泰雄他）	目標値	500
		第一生命ホール		実績値	608
4	645コンサート	H30. 10. 26	ジャズとクラシックのコラボコンサート 出演：松永貴志/古川展生	目標値	500
		第一生命ホール		実績値	386
5	トリトン晴れた海のオーケストラ	H30. 10. 6 H30. 12. 1	ベートーヴェン・チクルス交響曲全曲演奏会ⅠⅡ 出演：晴れた海のオーケストラ（コンサートマスター矢部達哉）	目標値	1,160
		第一生命ホール		実績値	1,151
6	室内楽の魅力	H30. 9. 30/12. 22 H30. 6. 15/12. 15 H30. 10. 20	室内楽ホールで名手の音楽を楽しむ 出演：小山実稚恵/アルティ弦楽四重奏団/川本嘉子/小菅優&石坂団十郎/パボラークアンサンブル	目標値	2,180
		第一生命ホール		実績値	2,438
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	6,060
				実績値	6,582

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オープンハウス2018	H30. 7. 21	ホール無料開放デー 出演：浜まゆみ・クリスフロー/松原勝也セミナー生/TANBRASS	目標値	1,000
		第一生命ホール		実績値	930
2	アウトリーチ	H30. 6. 8~H31. 2. 28	小学校/高校/幼稚園保育園/介護施設/病院アウトリーチ 出演：浜まゆみ/TANBRASS/日本音楽集団/吉川健一/Buzzfive	目標値	2,330
		中央区江東区小学校		実績値	2,735
3	室内楽アウトリーチセミナー	H30. 7. 21~H31. 3. 25	小学校他アウトリーチ、ホールロビーコンサート 出演：講師松原勝也、受講生松谷萌江/鶴友美/饗庭萌子	目標値	120
		中央区小学校、こども園他		実績値	87
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	3,450
				実績値	3,752

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当団体のビジョンは「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」、ミッションは「音楽によるコミュニティの活性化。音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」である。

地域特性としては、東京臨海都市の人口急増地域で、特に年少人口を有するファミリー層の増加が顕著、地域ネットワークが希薄であることから、まちづくりが急務の課題である。

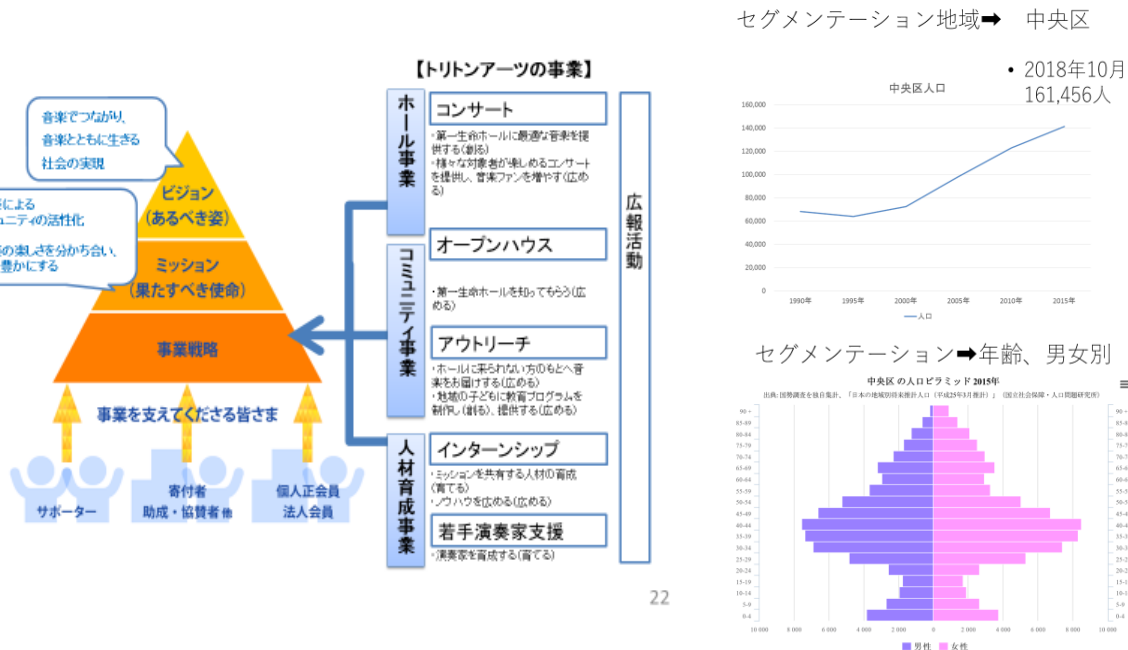
以上を踏まえ、具体的なミッション実現イメージは以下の通りである。

- ・ミッションに共感する誰もが、聴衆、サポーター（ボランティア）、会員、寄付者、演奏家等々、様々な形で参加でき、音楽を楽しみ、ともに生きる社会。

- ・地域に第一生命ホールがあり、街のオーケストラがある。ホールに来られない人のもとへは、コミュニティ活動があり、地域に身近に音楽がある社会。

- ・人口急増地域の晴海で育つ子どもたちが、音楽とともに生きる社会。

このミッションと地域特性に基づき、0歳からホールに入場できるようステップを踏んで組み立てられたシリーズによる「公演事業」、地域に音楽を届ける「普及啓発事業」を組み立て、当初の予定どおりに実施することができた。



22

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

- ・年少人口が増えている地域特性にあわせ、公演事業は充実した子ども向け企画（0歳から3歳「ロビーでよちよちコンサート」、4歳以上には、小学生体験つきの「クリスマス・オーケストラ・コンサート」、また子育て中の親対象の「子育て支援コンサート」）を用意しているが、家族での来場を想定しチケット価格は低廉に、また託児も用意する必要がある。内容はオリジナル企画を毎年工夫を重ねて創出しており満足度は高いが制作費はかかる。チケット完売でも賄えない経費を助成を活かして継続させ、年齢に応じた来場に結びついている。

- ・地域の誇り「晴れオケ」は指揮者なし室内楽ホールならではの臨場感、集中力、演奏の質の高さが、高く評価されているが、晴海トリトンスクエアからの協賛および約700席のホールのチケット代だけで経費の捻出は難しい。

- ・アウトリーチは、小学校は教育委員会からの予算補助はあるものの、寄付金や個人・法人会費を充てても出演料、楽器運搬経費など全額はカバーできないので、助成があることで中央区のほぼすべての小学校で4年生に継続実施していることに意義がある。

- ・アウトリーチ実施には演奏者側もスキルが必要で、そのため若手演奏家のためのアウトリーチセミナーを8年間継続、セミナー修了生がアウトリーチに行ったり、ホール公演に出演したり、と良い循環が生まれている。

- ・外部有識者で構成される評価委員からは「社会的にも大きな評価を得るとともに、完売公演がある等好調を維持し、良好なパフォーマンスであった」と評価されており、文化的、社会的、経済的意義があるものとする。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

●公演事業指標達成状況

1. 公演毎のチケット販売数の達成

事業番号1：870枚（目標720枚） 事業番号2：1,110枚（2公演／目標1,000枚） 事業番号3：584枚（目標500枚） 事業番号4：334枚（目標420枚） 事業番号5：864枚（2公演／目標960枚／2回目ほぼ完売） 事業番号6：①486枚 ②467枚（目標各415枚） ③250枚 ④388枚（目標各290枚） ⑤528枚（目標520枚）と、事業番号1、2、3の「子どもといっしょにクラシック」シリーズは完売となり目標達成。

2. 事業番号5と6におけるヤング券売上枚数の達成

事業番号5：目標の各90枚に対し、1回目13枚と低調だったが、2回目に小中高生向けのリハーサル見学会を実施し、33枚と盛返した。事業番号6：①15枚②8枚（目標各50枚）③6枚④6枚（目標各15枚）と未達、次年度への課題とする。⑤は124枚と、目標80枚及び前回28年度同じアンサンブルでのヤング券売上87枚を大きく上回った。

3. 事業2と3（4歳以上入場可のホール公演）における、事業1（6か月3歳親子向けロビー公演）の申込者占有率目標28%のところ、16%だった。9月に共催公演（本補助金申請外）で、0歳から入場可能なホール公演を行い、そちらでの事業1の申込者占有率は35%だったため、年齢順にステップアップして音楽を楽しむ環境はできており、ホールで実施されるコンサートに継続して参加していることが確認された。

4. 公演共通アンケートによる満足度：「本日の公演はいかがでしたか？」（5段階評価）に対する「大変満足」「満足」の割合が、事業4で100%（目標95%）、事業5で98.5%（目標95%）、事業6で99.1%（目標90%）（無回答を除く）といずれも目標を達成した。

5. チケットデスク顧客分析による初購入者に対するリピーター割合は60%（目標65%）だったが、チケット購入者が4,156名（29年度）から、30年度は4,867名と増えており、リピーターも2,385名から2,921名と増えた。

●普及啓発事業指標達成状況

1. オープンハウス2018

・オープンハウス来場者数目標1,000名に対し930名。別会場である晴海トリトンスクエアグランドロビーでの人数を含めると実質は達成と考える。（29年度実績819名）

・オープンハウスの来場者アンケートによる初めて第一生命ホールに来た割合は、45%目標に対し42%（29年度41%）と前年並み

・オープンハウスの来場者アンケートによる地域住民割合（中央区と江東区豊洲地域在住の割合）は、75%目標に対し73%（29年度72%）と前年並み

2. アウトリーチ

アウトリーチ実施回数（小学校、中学校、高校、幼稚園、こども園、福祉施設、医療施設）計30回（目標28回） 中学校の新規は実施出来ず。

3. 室内楽アウトリーチセミナー

アウトリーチの内、若手演奏家支援としてのアウトリーチ（アウトリーチセミナー修了生によるアウトリーチ）を5回実施（目標4回、29年度実績3回）

2.3. アウトリーチ

小学生への共通アンケートによる満足度：

質問「本日のコンサートはどうでしたか」に対する答え「とてもよかった」と「よかった」の割合96.1%（目標95%）（29年度実績96.2%）

質問「コンサートを聞いて今までより音楽が好きになりましたか」に対する答え「とても好きになった」「好きになった」の割合86.5%（目標87%）（29年度89.1%）

質問「もっとコンサートに行ってみたいと思いましたか」に対する答え「とても思った」「すこし思った」の割合83.1%（目標85%）（29年度86.1%）とおおむね目標を達成した。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●公演事業

収入：予算16714千円 実績18089千円(108.2%) * 予算策定時より入場料収入1370千円増加

支出：予算27750千円 実績26923千円(97.0%) * 予算策定時より公演製作費827千円削減

(補足)

ロビーでよちよちコンサート、クリスマス・オーケストラ・コンサート、子育て支援コンサートの子どもといっしょにクラシックシリーズが完売。晴れた海のオーケストラベートーヴェンⅡや室内楽の魅力シリーズ小山実稚恵2公演、小菅優&石坂団十郎Ⅱが入場料収入目標を達成。

チラシ印刷費等の経費を圧縮した。

●普及啓発事業

収入：予算690千円 実績842千円(122.0%) * 予算策定時よりアウトリーチ実施校の増加による補助金の追加

支出：予算4819千円 実績5165千円(107.1%) * 予算策定時よりアウトリーチ実施校の増加による出演料の増加

(補足)

小学校アウトリーチの追加実施により、補助金、PTA協賛金の収入あり。

上記追加により、出演料、和楽器運搬費等の製作費費用の追加あり。

●申請額と決算額の乖離

公演事業：予算額25695千円 決算額24929千円 変更額765千円 変更率-3.0%

普及啓発事業：予算額4556千円 決算額4861千円 変更額305千円 変更率6.7%

上記の通り変更率は僅かであり、ほぼ予算通りの収支となった。

●事業期間

普及啓発事業で当初の計画より実施先が増えたことはあるものの、公演事業、普及啓発事業とも計画通りの事業期間で実施出来た。

●NPO法人決算の状況

(1) 活動計算書

経常収益 124,032千円 (2017年度比104.1%)

経常費用 121,871千円 (2017年度比103.4%)

当期正味財産増減額 2,160千円 (2017年度比347.8%)

前期繰越正味財産額 56,419千円

次期繰越正味財産額 58,580千円

・収益では法人会員の新規加入、個人大口寄付、文化庁補助金の増額、チケット売上高新記録等により、2017年度を上回った。

・費用では公演制作費の増加、ホームページリニューアル関連投資による費用増があるものの、その他経費の圧縮に努め、予算比99%となった。

・その結果、2017年度に引続き正味財産額を増額出来た。

(2) 貸借対照表

資産 73,151千円 (2017年度末比103.0%)

負債 14,570千円 (2017年度末比99.9%)

正味財産合計 58,580千円 (2017年度末比103.8%)

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

- 「子どもといっしょにクラシック」シリーズは、いずれもスタッフと共に打ち合わせを重ねて創るオリジナル企画。
 - ・ 9年前スタートの「ロビーでよちよちコンサート」は0歳から3歳児向けで、乳幼児の集中力に視察に訪れる他ホールや演奏家、保育福祉関係者が一様に驚く、ロビーで輪になって行う日本初の先駆性を持ったプログラム。
 - ・ 15年以上継続の「子育て支援コンサート」はメインターゲットが子育て中の親という、こちらも先駆的企画。第1部、両親がホールでクラシックコンサートを楽しむ間、子ども達は、年齢別に分かれた4つの音楽スタジオで音楽体験をする。第2部は、親子揃って、絵本を舞台上のスクリーンに映し演奏とともに楽しむ「音楽と絵本」を聴く構成。絵本の選定から音楽と朗読の構成、音楽スタジオの内容まで、演奏家とスタッフで新しく創造する。H30年はH24年に好評だった「銀河鉄道の夜」を再演し、音楽と朗読の重なりや画像の改善など、初演で達成できなかった内容の芸術的向上を目指した。
 - ・ 4歳以上向け「音楽と絵本コンサート」は長年共催する日本音楽集団（和楽器オーケストラ）と新たに「音楽と絵本」を制作した。
- 「トリトン晴れた海のオーケストラ」（コンサートマスター矢部達哉）は、ベートーヴェン生誕250年となる2020年に向けていち早く「ベートーヴェン・チクルス」を開始、初回公演が「音楽の友」誌の「コンサート・ベストテン2018」で平野昭氏にベスト1に選出されるなど高く評価された。
- 人気ピアニスト小山実稚恵による室内楽シリーズも新規事業としてスタート、演奏家に初共演の場を提供、室内楽ホールの特性を活かした企画となった。
- 普及啓発事業の小学校アウトリーチでは、音楽教諭に学習進捗状況を確認の上、演奏家と学校に合わせたプログラムを制作。スタッフが必ず事前リハーサルにも参加、内容の向上をはかっている。
- 「オープンハウス2018」はアウトリーチ出演の演奏家とともに企画した。楽器体験コーナーでは共催公演で関係の深い日本音楽集団、ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラと連携。オープンハウスプロジェクトサポーター（ボランティア）は学生から社会人まで多様な人材が4か月の準備から当日まで活躍した。
- 演奏家のための、アウトリーチに特化した「アウトリーチセミナー」は先導性あり、8年継続。講師はヴァイオリニスト松原勝也氏で、小学生がプロコフィエフなどの弦楽四重奏曲を高い集中力を持って聴くことのできるプログラムを毎年新たに生み出している。
- アウトリーチ担当スタッフは4年～10年以上の経験があり、演奏家と新しい企画を生み出すことに精通している。対外的にも、他ホール主催の催しで人材育成の取組みを各関係者に紹介、音楽大学でアウトリーチに関する講義を行うなどノウハウの提供に努めた。



【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

●顧客アンケートの活用

- ・主催公演における顧客アンケートでは満足度92.7%を獲得した。
- ・地域顧客の来場割合はオープンハウスでは73%、子どもといっしょにクラシックシリーズでは平均56%であり、地域の文化芸術の発展につながっている。
- ・アンケートによるニーズ把握と改善

例えば「ロビーでよちよちコンサート」のアンケートで「早い時間の開催のみでは通勤ラッシュに重なる」というご意見から、どの年齢も参加時間が選べるようにする、などより良い企画、運営に活かしている。

●中央区文化生涯学習課との連携企画の実施

- ・4年前から継続実施している中央区民カレッジでは4回講座で、講義、楽器体験、バックステージツアーをし、最後に公演を鑑賞。
- ・30年度からは、中央区民カレッジデビュー講座とホールで開催する東京国際合唱コンクール関連企画として中央区の親子学習会（講師は、共催している東京混声合唱団）を受託、行政と密に連携し、地域の文化芸術の発展に寄与している。

●小中高生向けリハーサル見学会実施

- ・「晴れオケ」のリハーサル見学会を実施、プロデューサーによるミニ講座とともにオーケストラに対する理解を深めてもらった。

●ウェブサイトの活用

- ・スマホ画面对応のレスポンシブ化を実施、ホームページをリニューアルし、利便性向上をはかった。

●広報誌による情報発信

- ・トリトンアーツ通信を年10回発行し、アウトリーチ先の小学校、保育園、幼稚園等に児童、園児数分配布し、保護者への告知を行った。小学生向け作曲家についての連載が好評。



【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

●財政支援状況とフォロー

・個人会員（年会費1万円、NPO議決権あり）推移

H26年度末657名 H27年度末671名 H28年度末745名 H29年度末736名 H30年度末733名（H26年度比+76名）

・法人会員（年会費1口10万円、エステルハーゼ会員5口以上、ラズモフスキー会員2口以上）推移

H26年度末44社2190万 H27年度末44社2220万 H28年度末44社2220万 H29年度末47社2310万 H30年度末52社2440万（H26年度比+8社250万）

・個人寄付者寄付金額推移

H26年度末200名133万 H27年度末201名144万 H28年度末198名233万 H29年度末186名264万 H30年度末172名186万（H26年度比-28名+53万）

・法人寄付・協賛金推移

H26年度4880万 H27年度4850万 H28年度5375万 H29年度5005万 H30年度4910万（H26年度比+30万）

・助成金推移（文化庁含む）

H26年度910万 H27年度751万 H28年度619万 H29年度826万 H30年度990万（H26年度比+80万）

・上記支援者のフォロー

活動状況を掲載したフリーペーパー「トリトンアーツ通信」を年10回発行し、レターとともに送付している。また年間の事業報告書、評価報告書をウェブで公開することと併せ、法人会員に送付している。大口法人寄付者には毎月の定例会議にて活動状況を詳細に報告している。

●サポーター（ボランティア）育成

様々な属性の登録サポーター77名は年間2回以上参加者率74%で適材適所で活動した。外部講師による接遇研修も実施。オープンハウスや子育て支援コンサートの大型イベントへの参加率が課題である。インターンシップに該当しない学生はサポーターとして東京藝大3名、大学非常勤講師1名を受入れた。また別途公募したオープンハウスのプロジェクトサポーター6名（社会人3名、学生3名）は7月本番まで4か月に亘り、イベントの各コーナーの責任者として活躍した。

●スタッフ人材育成

原則正社員採用をしており、チケットデスク業務のルーティンワークやお客様対応を経験し、制作や広報担当にコンバートしている。年間3回の定例面談を通して組織目標からブレイクダウンした個人目標の達成を目指す。少人数体制につき体系だった研修が難しいので、各自のスキルアップを外部講習、セミナーを活用し、経費補助を行っている。

●劇場・音楽堂等間のネットワーク形成

プロデューサーが仲道郁代監修の「音楽がヒラク未来2017」のモデレーターを務めた経緯で、サントリーホールと東京文化会館と三館連携「若手演奏家支援事業」で都内近郊ホール担当者にアウトリーチノウハウの講演と一般のお客様へ演奏会を実施し、好評であった。来年度はホール担当者やアウトリーチに興味ある若手演奏家、音楽大学関係者を対象にしたシンポジウム「アウトリーチを考える」を開催する。

●教育機関とのネットワーク形成、キャリアパスの構築

プロデューサーがH28年より昭和音楽大学に非常勤講師として「芸術文化と社会」前期を担当。活動紹介のうへ、興味ある学生にはサポーターとして受入れしている。またインターンシップの定期受入れ（単位取得対象）は昭和音楽大学、一橋大学大学院を実施しており、H30年度は各3名、1名を受入れた。